

国際工学アカデミー連合(CAETS)年次総会等報告

2025 年 11 月

2025 年 9 月 8～11 日、オーストラリア技術工学アカデミー（ATSE）の主催により、ブリスベンに於いて、CAETS 年次総会及び併設シンポジウム（CAETS2025）が開催され、EAJ から原山優子国際委員長、田口康理事が参加した。概要は次の通り。

0. 国際工学アカデミー連合（CAETS）と年次総会

CAETS は、独立した非政治・非政府の工学・技術科学アカデミーの国際組織であり、審査により 1 ヶ国につき 1 つのアカデミーが加盟を認められ、現在、31 ヶ国のアカデミーが加盟している。EAJ は、1987 年の設立後直ちに CAETS への加盟を目指し、1990 年、10 番目の CAETS メンバーとなり国際的にその存在が認められた。

年次総会は、年に 1 回、各国アカデミーが持ち回りで開催している。

1. 理事会及びレセプション

8 日は、午後から理事会が開催され、夕刻はレセプションが開催された。（理事会メンバーはローテーション制で EAJ は現在理事会メンバーから外れている。）

2. 二国間会合

各国のメンバーが一同に会する貴重な機会であるため、8 日の到着直後から積極的に 2 国間会合を行い、当方から EAJ について説明を行ったほか、今後の協力に向けた協議等を行った。結果は次のとおり。

- (1)NAEK(韓国 9/8pm)：先方は、JAFOE の活動に関心を持ち日韓でも若手ができないかとの提案あり。当方からは日中韓の枠組で若手のジャンルを作るのもありではないか、と応答し、今後相談していくことになった。
- (2)INAE(インド 9/8pm)：QUAD の枠組に関心を持っているが、米の立場がよく分からない由。当方からは、いずれにせよ、日印の若手交流を進めるのが良いのではないかと応答。今後も相談していくことに。
- (3)NAE(米国 9/9am)：QUAD に関心あり。当方からは（政治に対して提案はするが）Political な活動には消極的である旨述べ、いずれにせよインドを含めたアカデミックな、若手中心の協力の可能性を探っていくことで合意。
- (4)ATSE(オーストラリア 9/9pm)：次回の ERLEP 開催に向けた日豪双方の役割分担等について協議を行った。
- (5)RAEng(英国 9/9pm)：EAJ との二国間協力に関心を示し、JAFOE のような活動ができないか、来年度の予算をみながら対応。（英国は本年 3 月に来日しているがその枠組等を確認する必要あり）

3. ワーキンググループ会合

9 日の午前中から昼にかけて、6 つのワーキンググループの会合（コミュニケーション、ダイバーシティ、工学教育、エネルギー、サステナビリティ、AI）が予定され、それぞれの活動について報告等があった。コミュニケーションワーキンググループには田口が出席したが、議長（オランダ）及び副議長（中国）から、日本の貢献に期待する旨の発言があり、当方からは我が国専門家と相談する旨応じておいた。

4. 評議会(Council Meeting)

(1) 理事会からの報告

2024 年予算の監査結果、2025 年予算の状況、承認された 2026 年予算等について理事会から報告があ

った。

(2) ローテーションスケジュールの承認（下表を参照願いたい。）

- ノルウェーとベルギーの退会及びチェコの財政難で、2027 年、2029 年、2030 年が空白となったため、調整の結果、オランダが 2027 年、ポーランドが 2029 年、スロベニアが 2030 年の開催地となった。
- これに伴い、2031 年に南アフリカ（←日本）、2032 年にカナダ（←オランダ）、2033 年にデンマーク（←スロベニア）の開催となったほか、日本は 2029 年開催の提案を受け入れられなかったため、機械的にポーランドの位置と入れ替えたローテーションスケジュールが承認された。

CAETS Rotation Schedule – 2026

Member Academy	Date Elected	Annual Meeting Host	Officer			Board			
			President Elect	President	Past President	Board	2024	2025	2026
Australia (ATSE)	1978 (F)	2025	2024	2025	2026	2026	Katherine Woodthorpe	Katherine Woodthorpe	Katherine Woodthorpe
Germany (acatech)	2005	2026	2025	2026	2027	2027		Johann Wörner	Frank Behrendt
Netherlands (AcTI.nl)	1993	2027	2026	2027	2028	2024			Lukas Roffel
USA (NAE)	1978 (F)	2028	2027	2028	2029	2024	Nadine Aubrey		2027 Nominee
Poland (AIP)	2023	2029							
Slovenia (IAS)	2000	2030				2025	Igor Škrjanc	Igor Škrjanc	
South Africa (SAAE)	2009	2031				2023			
Canada (CAE)	1991	2032				2021			Robert Crawhall
Denmark (ATV)	1987	2033				2023			
Mexico (AI)	1978 (F)					2021			
Switzerland (SATW)	1988					2022		Deferred	2027 Nominee
Hungary (HAE)	1995					2024	Andras Szollosi-Nagy		
China (CAE)	1997					2025	Tian Qi	Tian Qi	
India (INAE)	1999					2020		Indranil Manna	Jayant Patil
United Kingdom (RAEng)	1978 (F)					2021		Deferred	2027 Nominee
Spain (RAI)	1999					2024	Jaime Dominguez		
Pakistan (PAE)	2018					2022			2027 Nominee
Uruguay (ANIU)	2000					2019		Julio Fernandez Odella	Julio Fernandez Odella
New Zealand	2019					2023			
Serbia (AESS)	2019					2025	Miloš Nedeljković	Miloš Nedeljković	
Nigeria (NAE)	2019					2025	Rahman Bello	Rahman Bello	
Sweden (IVA)	1978 (F)					2020	Deferred	Gosta Lemne	Gosta Lemne
Ireland (IAE)	2020							Sean Finlay	Sean Finlay
Korea (NAEK)	2000					2021			Euijoon Youn
Argentina (ANI)	1999					2022			Oscar Vignart
France (NATF)	1989					2023			
Singapore (SAEng)	2023								Kok Kwang Phoon
Japan (EAI)	1990					2021			2027 Nominee
Croatia (HATZ)	2000					2024	Vedran Mornar		
Finland (TAF)	1989					2025	Mika Hannula	Mika Hannula	
Czech Republic (EACR)	1999					2020			

(3) 新しい会長及び理事会メンバー(2026-2027 年)の承認等

ローテーションに基づき各国アカデミーから推薦された 2026 年の会長（＝2025 年の“次期会長”）及び 4 名の新理事会メンバー(2025-2026 年)が承認された。また、5 名の理事会退任メンバーへの感謝が表明された。

(4) 2024-2025 年の会費スケジュールが承認された。

(5) その他

2026 年開催のドイツから開催概要について、2027 年開催のオランダから準備状況について報告があった。また、各 WG からの活動状況の報告等があった。

5. 併催シンポジウム

9 月 10 日（水）公開シンポジウム「世代：50 年後の持続可能な未来を形成する国際シンポジウム」が開催され、各国アカデミーからの 15 名を含む 42 名の講演者が、8 つのパネルセッションと「オリンピックに焦点を当てたエンジニアリン

グ・ザ・ゲームズ」セッションで講演を行い、各国の代表者、若手研究者、学生等が参加した。

開会基調講演は、オーストラリア産業・イノベーション大臣兼科学大臣であるティム・エアーズ上院議員によって行われ、オーストラリア政府がどのように能力と産業競争力に投資しているかが説明された。

開会全体パネル：「グローバルな課題に向けた新興技術」には、EAJ から原山国際委員長がパネリストとして登壇した。また、国内外専門家により開催された6つのパネルディスカッションのうちの一つ「将来の食料安全保障」では、内閣府の戦略的イノベーションプログラム（SIP）の課題の一つである「豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築」から門脇サブプログラムディレクターが登壇した。

最後は、閉会全体パネル：「気候技術の協力：アジア太平洋地域の繁栄のためのパートナーシップ」で締めくられ、CAETS2025 からの新たなテーマとして以下のポイントを指摘した。

- ・ 急速な技術革新と社会変革の中、レジリエントな社会システムを構築する必要性
- ・ AI を責任を持って活用する必要性、指標の開発の緊急性、エネルギー需要の管理
- ・ 食料安全保障の達成、持続可能な食料供給チェーンの革新、既存資源のより良い活用
- ・ 技術の適切な活用による教育、予防的な医療、健康と福祉
- ・ 気候変動、エネルギー転換、食料安全保障などへのグローバルな対応、海洋・宇宙のガバナンスの国際協力
- ・ 伝統的知識と現代の科学技術工学の融合による持続可能な未来
- ・ 持続可能な未来に必要な資金調達、民間部門の関与、グローバル規模での調達可能性

5. ガラディナー及び“CAETS コミュニケーション・プライズ” 表彰式

ブリスベン・シティ・ホール（市庁舎ホール）において、アボリジニーの歌や踊りを交えてガラディナーが開催され、その場でコミュニケーション・プライズの表彰式も行われた。

本賞は、工学又は技術的科学における卓越性と革新性を備えた最も優れた視聴覚コミュニケーションに授与される賞で、2021 年に創設され今回は 5 回目。受賞者は、南アフリカ・ツワネ工科大学バレンド・ヴァン・ワイク教授の「持続可能な自動車技術：TUT のケーススタディ」であった。また、ニコラス・ヴェバース（オーストラリア国立大学キャンベラ校）の「サマサラ・エコが酵素的にリサイクルされたポリエステルからジャケットを作った方法」、及びギレルモ・ホセ・アギーレ・エスポンダ（メキシコ、ソレナ）の「ソレナ：メキシコのルーツとグローバルビジョンを持つリビングエンジニアリング」が佳作（Honorable Mention）となった。

6. テクニカルツアー

4 つのテクニカルツアーが用意された。◎クイーンズランド工科大学、◎GETCO2, ARC バイオプラスチック・バイオコンポジット研修センター、◎オリカ・グラウンドプローブ（田口が参加。鉱物採掘のグローバル企業群、世界中で毎日 1500 発の発破を実施しており、爆破シミュレーション、AI ロボット開発等を実施）、◎ARM Hub

7. CAETS 年次会合の日本開催に向けて

今回提示されたローテーションスケジュールでは、日本が前倒し開催の要請を受け入れなかったことから、事務局と各国による調整を経て、日本開催は先延ばしとなった。（当初事務局では 2031 年日本開催を考えていた。）

開催国が決まっているのは 2033 年のデンマークまでであるが、2034 年以降の早いタイミングで日本開催が期待される可能性が高い。来年のローテーション表作成の調整に向けて、2034 年の開催を是とするか否か腹決めをする必要があると考えられる。

なお、前回は、2007 年 10 月 22 日(月)-26 日(金)に“CAETS2007 TOKYO”を主催している。2002 年頃からテーマを検討し、2005 年に「環境と持続的成長」を正式なテーマとすることを発表した。会場は京王プラザホテル、テクニカルツアーは地球シミュレータだった。

5 年間の準備期間が必要とすれば具体的な検討にはまだ時間があるが、まずは EAJ としての CAETS に対するコミットメントを確認する必要があると考える。もとより、EAJ が我が国唯一の「工学アカデミー」であることは、CAETS のメンバーとなることによって国際的に認められたものである。すなわち、CAETS は EAJ の存立基盤の一つでもある。このことを EAJ として確認した上で今後の CAETS への対応を考えるべきだと考える。そして、何よりも EAJ の活動目的に照らして、CAETS の活動へ関与していくことが重要である。

以上（文責：田口）